

道 路 工 夫

靜岡縣道路工夫 佐藤丈右衛門

萩坂巳作

佐野恵作

青島金作

小塚繁太郎

山下春吉

野中源次郎

昭和十六年九月二十日

道路改良會長正三位勳一等法學博士 水野鍊太郎

表 彰 狀 (頒發付)

各 通 道路工夫 何 某

多年道路ノ維持修繕ニ精勵シ功績洵ニ顯著ナルモノアリ仍テ之ヲ表彰ス

蘇聯の全貌と抗戦力と交通問題

(下)

淡 路 生

元來ロシアは現蘇聯政府の設立を見るまでは彼のロマノフ朝時代には、義の世界戦争に參加し、更に其後長きに涉る鬭争と封鎖と内亂と飢饉とは、この國の生産力を徹底的に打破したのであつた、交通機關は殆ど全く軍事的目的のみに使用せられた結果、各地方の經濟的連絡は杜絶するの有様となり、市場は消滅し金融制

三ツ組木杯及功績章
單杯木杯及功績章

鈴木清一

た六〇%に減少して實質的質銀額の如きは辛じて三二%を保持するに過ぎなかつたのである、然るに蘇聯政府になつて勞農階級の努力と當局の科學的經濟計畫と先駆勞働者の鐵の如き強固なる意志とは結合されて、蘇聯邦が計畫經濟準備時代を脱して愈々積極的に促進せらるゝに至つた、第一次五ヶ年計畫の初年度である千九百二十七年及びその翌年度たる廿八年の實績は既に戰前の經濟水準を超えてゐたのである、これを國家經濟企畫委員會ガスプラノの示す統計に依つて見ると。

蘇聯主要工場の生産額

年次	生産額單位百萬留	前年比較增加率
一九一三年	一〇、二五一・六
一九一二年	一、九二三・七	四二・六
一九二一年	二、四一二・一	二九・九
一九二二年	三、八二九・一	五三・四
一九二三年	四、四六八・九	一六・七
一九二四年	七・四三六・一	六六・四
一九二五年	一〇・二七六・九	三八・二
一九二六年	一一・七五四・八	一七・三
一九二七年	一四・七五八・八	三二・四
一九二八年	一四・七五八・八

かやうに、蘇聯の 主要工業の 生産額は五ヶ年計畫の 實施前後の 年度から急激にその能率は向上を示し、従つてその生産額は増加

してゐるが、更に蘇聯經濟總生產額を見ると。

蘇聯經濟生產額「戰前價格十億留單位」

年 度	全工業	製造工業	農業	全生產額
千九百十三年	八・四三	六・三九	一一・六一	二〇・〇四
千九百十八年	三・六六	二・一六	一〇・六一	一四・二八
千九百十九年	一・九五	〇・九五	八・八六	一〇・八一
千九百二十年	一・七二	〇・八二	八・〇〇	九・七二
千九百二十一年	二・五四	一・四四	六・三一	八・八五
千九百二十六年	八・七六	六・七三	一一・三七	一一・一三
千九百二十七年	一〇・〇八	八・一四	二二・四七	二二・三四

である故に蘇聯の總生產額……經濟力は千九百十九年同二十一年度は最も低下して居たが、やはり五ヶ年計畫開始の前後には急速なる発達を遂げてゐる。

蘇聯邦の商業は歴の歐洲大戰以前までは一定の租稅が課せられてゐた外は何等の制限なく自由に行はれてゐたのであつたが、千九百十七年三月革命から十一月革命までは臨時政府は穀物及び穀粉の專賣を行ひ以て軍隊と都會住民とが食料品に窮するのを防止したのであつた、ソヴェート政府の出現後彼の新經濟政策を執るに至るまでは、前の世界大戰に依つて生産は混亂し封鎖と干涉と内亂等の原因が經濟生活を極度に破壊したために、國家自身が直接食料のみらず一切の必需品の分配の衝に當つたのであつた、然

るに千九百二十一年度から新經濟政策を採用した結果、國內取引は復活し、國家は取引の完全を保護して投機を抑へ、消費者の利益を計り、又農民がその生産物を適當なる價格を以て自由に販賣出来ることを許し、取引の當事者は國家と協同組合及び私人の三者と限定したのである。而して國營商業の約七割は國家の設置するトラストがこれを行ひ、協同組合は毎年取引額の七割は消費組合二割は農業協同組合に一割は手工業協同組合が之に當つてゐる、而してこれは國內商業であるが、外國貿易の方は千九百十八年の法律に依つて國家獨占の原則が制定されて、國家の手にて統一せる結果色々の冗費は省かれると共に國家の存續する限り破産破裂の恐れがないので、外國取引先の信用も博する便利もあつて蘇聯と貿易するものは夫々自國駐在の蘇聯の商務官と契約をして取引するのである。獨蘇開戦までの蘇聯輸出品は主として農產物たる麥、牛酪、卵、廐、羊毛等にあつて全體の約三分の二を占め殘部は工業製品、石油製品、マンガン鑑石、砂糖等である。蘇聯に輸入は工業原料及び半製品が半分以上を占め製品が三分の一以上であるが他は小部分の食料品と日用雑品である。

そして輸出品としては英國が最も多く全體の約四分の一に及び次に獨逸が全體の五分の一に達してゐた、其他の諸國は頗る僅少であるが、對聯邦輸入國としては獨逸が全體の約三分の一以上を占めて第一位にあり、次いで米國が五分の一、英國が六分の一と云

ふ割合率を示してゐたのであるが獨蘇開戦以來この順位種類には非常の差を生じてゐる、今茲に参考にまで從來我國と蘇聯邦との貿易を統計的に見ると。

我國に蘇聯より輸出量額

一千九百二六年……二七年	一千九百二十七年……二八年
日本三八三、九四五	一、四九二
一、四九二	五、一〇、二一、一
五、一〇、二一、一	一、三、六八〇
一、三、六八〇	

我國より蘇聯に輸入

一千九百二六年……二七年	一千九百二十七年……二八年
日本八、三七〇	三、〇八三
三、〇八三	一、一、六五四
一、一、六五四	四、一五七
四、一五七	

となつてゐる。

斯處に蘇聯の生産力と經濟力を觀察すると共にこれが原動力とも云ふべき關係にある蘇聯の交通狀況を見ると。

現在の蘇聯邦の鐵道は勿論全部國有であるがモスクワを中心として重要な幹線は殆んど全部こゝから出發してゐる有様である、即ちシベリヤ鐵道、中央アジャ鐵道、コーカサス鐵道、トルキシスタン、シベリヤ鐵道等はこれである、現在の延長線は千九百卅九年度に於て交通委員部の報告に依ると八萬九千キロとなる、これを面積に比較すると百キロに付き僅かに四キロ程に過ぎないのである、國土龐大の割合にその發達はこれに伴はざる

状態であるから從つてこれが蘇聯の各種生産力に影響してゐることは云ふまでもない。特に千九百二十二年頃までは運輸機關の紊亂は食糧及び燃料の缺乏と共に蘇聯經濟復興の三大障礙をなしてゐた、然るに漸く千九百二十三年の春頃から漸次復舊の緒についたのであるが、これを現在の延長と同十三年頃に於けるものとを比較して見ると。

鐵路鐵道の延長比較

千九百十三年

五八、一六一「單位秆」

千九百十七年

六三、五七〇

千九百廿四年

七四、四〇〇

千九百廿七年

七五、七八三

千九百廿八年

七六、八三七

千九百卅九年

八九、一〇一

となつてゐるから大體に於て三萬秆程は延長されてゐる計算になつてゐるがこの中にはウオルガ地方、ウラル地方と南方の海港とを結びつける南北線シベリア地方とトルキスタンとを繋ぐ東西線等は含まれてゐる、特に棉花穀物等の運搬計畫がこれ等の鐵道の延長に考慮されてゐることは勿論であるが、この大國に比しては鐵道延長はまだ貧弱たるは免かれない、鐵道交通は蘇聯の產業、發達の癡として依然其進歩は遲々たるものがあつたので既に五ヶ年計畫は豫定の如く進捗し、各種生產各部門の生產力は著しい増

加を示して來たのに拘らず、從來の鐵道交通のやり方では到底延長や改良等の任務を達成することが出來ない有様を見てとつたスダーリンは、斷乎として舊鐵道大臣アンドレーフを退けて自分の片腕であるガガノフイツチを鐵道大臣に任命して一擧にして鐵道交通の能力向上を計つたのであつた、そうちて彼の執つた非常手段は延長に改良に着々と功を奏して千九百三十五年には一晝夜の積載輛數は、僅かに五萬五千輛内外にあつたのが其の年の暮には八萬五千輛まで増加し、又他方に於ては各地に機關車工場車輛工場或は修理工場を急設して、翌年には一月に機關車二萬三千輛貨車六十數萬輛を整備した程であつたが現在では約二倍半の増加をしてゐる、これが爲蘇聯の工業生產力も相當に増率を示してゐる。鐵道の發達を補ふ爲に自動車が一昨年から一層大規模に定期運輸計畫を立てて、これが實施してゐるが道路の關係上彼の獨逸の國內自動車運輸の如きに比すれば未だ幼稚なものである、千九百二十八年の調査に依ると各種自動車は一萬八千餘臺、自動自轉車は六千五百餘臺に過ぎない有様である、然し現在では約十七萬臺に達してゐることである。

蘇聯の道路は現在その延長路は約二百七十九萬餘秆に達してゐる、これを各國に比較すると米國に次ぐ延長路を持つてゐるが、これ等の道路も又モスクワ、レニングラード、キエフ、ハリコフ等主要都市を基點として發達し、又蘇聯領土内にある七十六港に

も夫々通じてゐるが、主要都市を除いた地方道路に至つては非常に粗悪の箇所は多いのである、鋪装等に於ても又主要都市内及び其附近には所々施工してゐるが、地方道に於ては何等見るべきものはない有様である、更れば降雨等に依ては道路の能率は非常に低下されて、これが輸送と交通關係に至大的の影響を與へるのである、一億六千萬の住民と二千百萬キロの土地とを持つ蘇聯としては國土の北大苟も平坦性に鑑みて道路は割合に發達してゐないのである、従つて政府は最近に至つて一層舗装の擴大に努力した結果、近年は稱や見るべきものがあるが、獨蘇開戦に至つてソ聯軍がその退却に當つて橋梁道路等を自身の手にて多大に破壊したために、千九百二十三年程度の状態にまで道路橋梁状態は進展りしたと云はれてゐる、現に今回の獨蘇戦に於て英國としては對ソ援助の輸送路に付いて相當焦慮してゐるが前陸相ホーア・ベリシア氏がニユース・オブ・ザ・ワールド紙上に於て。

ロンドンからケープタウンを経てベルシャ灣岸までは一萬五千百マイル、同地から裏海經由モスクワまで二千四百六十マイルで實に世界半周以上の遠距離にある、若し地中海經由すればロンドン、モスクワの距離は半減するが、何れも蘇聯内に入れば鐵道に依ることは勿論であるが、若し蘇聯内の道路が完備して居れば軍事的に見て一層効果を擧げ得るだらう、然るに蘇聯の地方道路は軍需品等輸送能力には完璧とは云はれない云々。

と、述べてゐるのを見ても蘇聯の地方道路は部分的に除いた外はまだ完全なものとは云へない状態である、今回獨逸軍がモスクワ攻撃の主要道路である、モスクワ、カリーニン、百八十糠、モスクワ、ツーラ百五十糠には相當立派なる主要幹線道路が通じてゐて平時では貨物の輸送も相當に行はれてゐるが、既に今度の獨蘇戦に於て、これ等の主要道路には到るところ地雷が敷設され、獨軍のモスクワ進撃に伴ひその橋梁道路等は大破壊されて見る影もない状態を呈してゐることは、獨逸從軍記者の報するところである、レニングラードも道路は又こゝを基點としてノヴゴロド、ボロコイエ等に延びてその道路は相當見るべき主要道路が貫通してゐたが、これも亦獨蘇戦の結果大半破壊されたやうである。これ等到るところの歐露主要道路の破壊は蘇聯の各種生産力を低下せしめ、従つてその抗戦力を一段と低下せしめることは明瞭であるが、専門家の觀測するところに依ると「蘇聯は今回の戦争の結果道路橋梁に於て其の全體の約四分の一を失ひ、領土占領せられたるを別にして其の結果輸送力に於て約五割の低下を示すのである」と云つてあるが試に主管さるゝものがある。

蘇聯の交通運輸機關の一種としてこゝに見逃すことの出來ないのは、この國の地形は平坦性と河川の緩流と大河性とは水系の豐

富なることに依つて河川運輸を著しく發達せしめたことである。その水路の豊富なることは世界第一と稱せらるゝ位であるが、これが水路は七萬五千糠と云ふ驚べき延長に達し、一億キロ曠内外の貨物運送に水系を利用してゐる、特に今回獨軍に依つて占領されたるウォルガ河が最も有名であるが、この河の汽船だけでも獨蘇開戦前までは約二千三百隻に及んでゐる、この河川運河を進展せしめ一層その能力を發揮せしむるために蘇聯當局はバルト海、白海運河、モスクワ、ヴォルガ河運河、マニチ運河、カスピ海、黒海運河、ウォルガ河運河を建設し以て蘇聯特有の運河交通運輸の發展に資してゐる、今回これ等水系も獨逸が約三割強に上の占領に依つてその機能は低下してゐるのである。

今や赤軍の善謀善戦も獨軍の勇猛果敢なる进攻を阻止することは漸く困難となつてゐる、モスクワの運命もレンツクラードの運命も落日孤城の觀を呈してゐるが、夫れども赤軍は今猶も首都防衛に死闘を辭せざる概を以てこれに當つてゐるが、大勢は既に決したものと見ることが出来るが、ナチオナル、ツァイトウング紙は、蘇聯の冬季攻勢の不可能に付いて人的物的資源を検討して、蘇聯の物的資源は蘇聯防衛に必要なだけはあるが、冬季に入つてから反攻に出るには足らない、蘇聯がウラル地方に依然として重要工業中心地を有してゐることは事實であるが、クズバスの炭坑や南部の棉花生産地に於て見られる如く、原料資源

の輸送關係が鐵道や道路關係に於て輸送施設が十分發達していないといふ弱點を持つてゐる。

と詳細に蘇聯の鐵道と道路關係等一般輸送機關とその狀態特に地方道路等の粗悪を論じて。

ウラル及びその他の蘇聯工業中心地の現在に於ける工業生産はウォルガ以東の赤軍防衛には供給するには十分である、これに加へて英米兩國が對蘇援助を促進すれば赤軍の冬季攻勢も或は可能となるであらう、併乍ら一方獨軍はその一部を他の戰線に向け冬季の間に全戰局を變化せしめ得る如き作戦を開拓し得るだけの用意を持つてゐる、蘇聯の豫備力は現在まで千八百萬の多數を算し得るものになつてゐるが、生産力の低下と輸送關係はこれ等の豫備軍に軍需品の配給其他に於て非常にその事を低下せしめるであらう、前世界大戰にも帝政ロシヤ軍が精銳部隊の失はれた後豫備軍がこれに代つた時遂に大敗北を喫したことを想起すべきである。

とて、獨逸側では蘇聯の兵力及び資源關係と輸送力の問題等に及んで既に潰滅に頻してゐると觀測してゐるが、獨軍當局が最近非公式に發表した對蘇戰の戰果を見ると、赤軍の損害は狙擊師團六十七、騎兵六個師、戰車八個師及び戰車六旅團、總數八十數個師團兵力六十萬であつて、更に六月一二日の開戦以來九月の末までの約百日間に殲滅した蘇聯兵力

は狙撃師團二百十七師、戦車五十個師、騎兵十九個師、山岳部隊九個師、民兵部隊二個師、總數二百九十七個師の外に落下傘部隊三個師團、歩兵部隊一個旅團、戦車部隊一個旅團この總兵力六百萬乃至七百萬である。十月末までの總戰果は擊滅兵力は四百師團に近く七百乃至八百萬に達するものと確信される。と云つてゐる。かやうに觀ると前記したる蘇聯の生產力と輸送

問題とを對照して蘇聯がモスクワ、レニングラード、ウクライナ、コーカシア等を喪失してウラル以東に退いた場合、例へ英米の物資援助があるも、これには自から運輸力其他に付いて限度があり、果して長期抗戰が維持出來得るか大なる疑問とするのであるが、今未だ現在の狀況に於てはこの冬季抗戰は依然として繼續して問題は來春雪解時期以後にあることを思はしめるのである。

小春の水戸近郊

苔

石

昭和十六年十一月九日、日曜を久しうぶりで下宿に迎へた水戸に住むやうになつて丁度百日を超えたことになる。

顔を洗つたのが朝の七時十分前、二階の窓を開け放して廊下に

停てば秋の陽ながらも心地よく肌を温ためる。空も可なりに晴れてゐる。飛行機が爆音を殘して蒼空を過ぎてゆく、隣りの屋根瓦

に虹が一匹日向ぼっこをしてゐる見てみると時々三尺位飛びあがつては又止まる。眞下の中庭には清楚な八ツ手の花が陽光をあ

びで咲いてゐる。その花には虹が二三匹止まつてて反射的に花びら咲いてゐる。飛行機が爆音を殘して蒼空を過ぎてゆく、隣りの屋根瓦

の白さが目に映じてくる、虹は軽そうに線さまざまに飛んでは止り止つては飛んでゐる。長閑な小春風景ではある。

蟲飛んで日向まぶしや花八ツ手

こんな句を考へてゐると急に郊外散策の衝動に馳られる、朝食もそこそこに護國神社參拜を志した。

下宿の主人から地圖で道順を教へて貰つて丹前を洋服に着替へ一散に飛び出す、裏通りから近道を抜け水戸驛西側の常磐線踏切を越えれば直ぐ平坦な田園になる、稻はすつかり刈りとられて水を